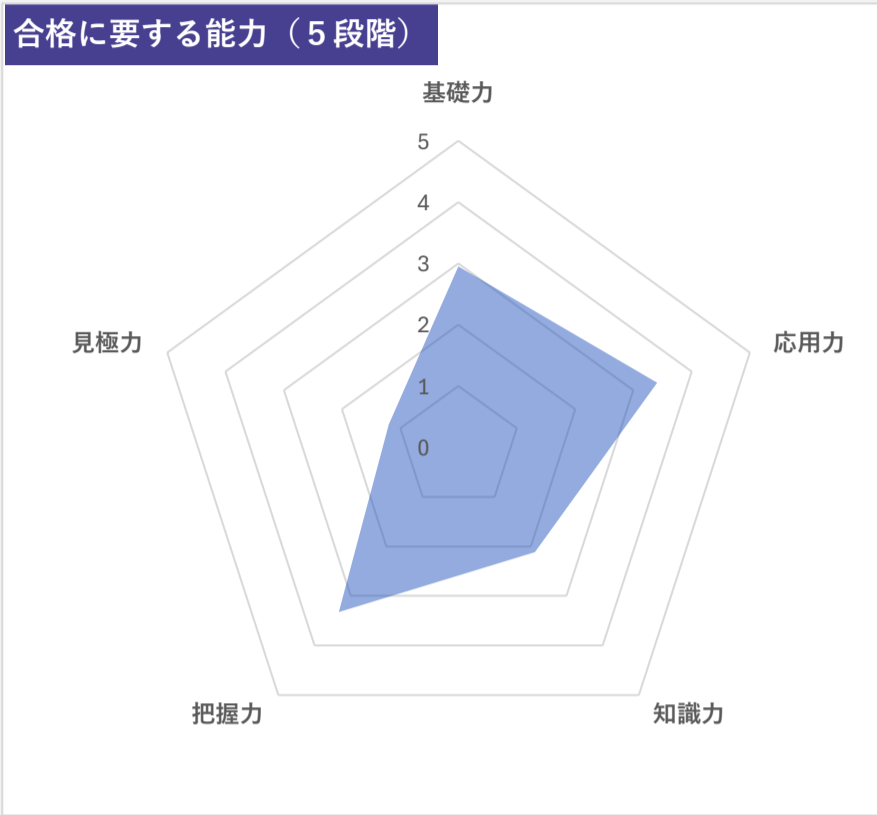


総合分析

試験区分	一般 (前期)
------	---------

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 3 問
------	-----------------	-----	-------



出題分野

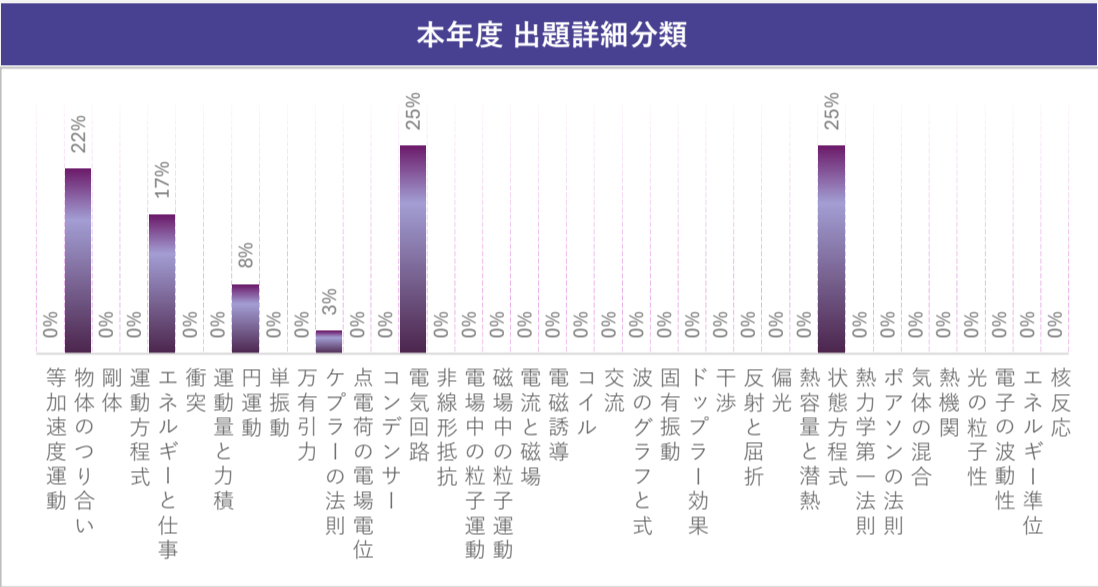
力学	50%
電磁気学	25%
波動	0%
熱力学	25%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧

第 1 問	円すいの内面を運動する小物体
第 2 問	熱気球
第 3 問	直流抵抗回路

本年度 解答形式

答えのみ記述	100%
--------	------



合格に要する能力 (5段階)

基礎力	2.8	原理についての理解
応用力	3.2	演習経験による慣れ
知識力	1.9	用語を正確に覚えているか
把握力	3.1	臨機応変に状況を把握する力
見極力	1.0	解きやすい問題を選択する力

特殊問題の有無

特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

特記事項 特になし

総合評価

難度	2.5	最難を 5 とする問題自体の難度	やや易しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	67%
分量	55分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	標準	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る 大学が求める学生像

標準的な問題集で扱われるような題材が、あまりひねりなく出題されている。各大問ごと前半に比べて後半がやや難しめとなっているため、後半をどれだけ得点できたかによって合格が決まるだろう。与えられた状況において持っている知識を素早的的確に適用できる能力が問われており、臨床医としての確かな判断を下せる資質がある学生が求められていると考えられる。